

ぽっく

No.9

2017年向秋号(8月31日発行)

- 1P ●チャレンジャー「PiPiクラブ」
- 2・3P ●特集「防犯—誰が地域を守るの？」
- 4P ●サポセンの講座・イベント情報 ●サポセン新規届出団体
- 5P ●豊島子ども WAKUWAKU ネットワークから学ぶ行政との連携
- 6P ●誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり
- 7P ●スタッフコラム「コミュニティビジネスって？」
- 8P ●ある日のサポセン「子ども会に新しいアイデアを取り入れたい！」

サポセンは、全力サポートセンターです。

「防犯—誰が地域を守るの？」

MATSUDO CIVIC ACTIVITIES SUPPORT CENTER



地域の安全・安心が脅かされる事件が相次ぐ中で、誰が、どのようにして地域を守っていくのか？市内で行われた講座をヒントに考えます。(2・3P 特集に続く)



【お問い合わせ】PiPiクラブ(担当=浦瀬) pipiclub0710@gmail.com か、facebook「おむつなし育児PiPiクラブ」ページまで。

今回のインタビュアーは、0歳の女の子をおぶった「おむつなし育児アドバイザー」の浦瀬さん。

「おむつなし」というと育児放棄？との勘違いも受けるそうですが、まったく逆で、子どもが排泄したい「五感」を大事に、親がしぐさやタイミングに気づくことで、子どもの自己肯定感と親の自信を育み、親子の絆を深めたい、という活動です。

紙おむつの快適さもあっておむつが外れるのが遅くなっている現代。周りの「その子のペースに合わせ」という常套句が逆に、親が何もしなくても子どもが「トイレに行きたい」と自分から口に出すようになる、という勘違いしているケースもあるそうです。排泄前の我が子のサインに気づき、おむつの外やおまる等に排泄するよう介助していくことで、子どもが排泄の気持ちよさを知り、自然と排泄の自立に繋がっていきます。

今は子育てしながら、9月24日にマルエツ矢切駅前店で開催する緑日あそびに向けて準備中とのこと。おむつ外しについての不安や周りに相談相手がない方は、ぜひ問い合わせしてみてください。

「PiPiクラブ」



チャレンジャー

vol.5

◆特集一市民活動の現場から「防犯—誰が地域を守るの?」

『顔見知りのお母さんでも信用しないように』と学校で指導があり、やるせない気持ちに…。
「最近子どもだけで公園に行かせるのが怖くて…」

去る5月15日、市内にあるコワーキングスペース「Mam@Labo 北小金店（注①）」で「子ども達の命はママが守る!～松戸市の防犯情報を知ろう」という講座が開かれました。

参加したママ達は、3月に六実で起きた痛ましい事件を受け、現在の不安な胸の内を口々に語りました。講座では、市内で新たな見守り活動を展開している「パトラン松戸（注②）」さんをゲストスピーカーに招き、市内の防犯情報サイト「松戸まもる君」の紹介、参加者同士の意見交換等が行われました。

パトラン松戸

「パトラン松戸」は、メンバー（パトランナー）が走りたい時に、走りたい場所を赤いパトランTシャツを着て走り見回り活動を行う団体です。現在、30～50代を中心に約50人が活動しています。パトランナーの木下さんは、元々走るのが好きで、主に平日の夜、会社から帰宅した後活動しています。同じくパトランナーで主婦の木村さんは、活動のきっかけを次のように語りました。



「我が子が通う学習塾の周りをパトランしてくれている様子がある日フェイスブックで見つけて、最初の1ヶ月くらいは感謝のコメントを送っていました。でも次第に『自分の子どものことなのに、ずっと誰かに見守ってもらっているだけでいいのかな。私も自分の子やその友人、他の子どもたちも見守れるようになりたい』という気持ちが芽生えました。

ただ、走るのなんて学校卒業以来。最初は不安で『私にもできますか?』とメッセージを送りました。すると『最初は1kmでも2kmでも、歩くことからでもいいん

ですよ』とお返事をもらい、『それなら私にもできるかも』と始めることにしました。

子どもの受験で忙しい時期は活動をお休みするなど、無理のないペースで続けています。今では子どもや夫と一緒にパトラン活動に参加してくれているんです。」

木下さんは、今後の活動の展望について、「パトランの赤いTシャツを着て走る人がまちに増えることで、犯罪の抑止力になればと思っています。今後はPTAや家庭教育学級、学校とも連携してパトランの講座を開くなど、更に認知度を上げ地域住民が地域を見守る輪を広げていきたい」と語りました。

松戸まもる君

続いて紹介された、松戸市の防犯情報WEBサイト「松戸まもる君」(<https://matsumamo.com/>)

市内の事件・事故情報を知るツールは、市が配信する「安全安心メール」や子どもが通う学校からのメールがあります。「松戸まもる君」はより自分が知りたいエリア（「小学校区」「最寄り駅」「現在地」「郵便番号」等）に絞って事件・事故情報を得ることができるのが特徴です。このサイトを作成した任意団体「Code for Matsudo」(注③)に、後日話を伺ってきました。



②2016年5月発足。
「パトラン」とは、「パトロール」と「ランニング」を掛け合わせた造語で、ランニングを楽しみながら地域を見回る防犯活動を行う。
2013年に福岡県宗像市で活動が生まれ、全国に広がっている。子どもや女性、お年寄りが安心して暮らせる地域社会の実現を目指す。毎月8日と18日に、松戸市内の駅に集まりパトラン組と星屑大作戦（ゴミ拾い）を行う。



①「大人専用の共有の仕事場スペース」「親子で過ごすコミュニティスペース」「子どもの遊び場となるキッズスペース」の三つのエリアで構成される、新しい形の施設。
2016年5月にオープンし、2017年4月に松戸市を中心に活動するママ支援団体「NPO法人 MamaCan」が運営委託を受け、リニューアルオープンした。



次のように話しました。

「これまでは、『市民』が税金を払って『役所』が行政サービスを提供していたけれども、あまりにも個人の生活が多様化してきて、これまでの体制では回らなくなってきたという実感としてあります。これからは、『役所』には住民が課題解決するための場を提供してもらい、暮らしている人みんなで力を合わせて地域の課題を解決していく時代ではないでしょうか。

僕たち「Code for Matsudo」は何も大それたことをするのではなく『こんな風になったらいいな』と思うことを、ITを使って細かなところから少しずつ変えていき、より良い生活につなげたいと思っています。誰かのために、というとすごくきれいに聞こえてしまうけど、どちらかというと自分達のため。自分達で住んでいる環境をより良くしていこうというのが活動の根幹にあります。」

今年2月に同団体が開催した「ITで子どもを犯罪・事故・災害から守るには?～みんなでアイデア会議 in 松戸～」で出されたアイデアを実現化したものが「松戸まもる君」。サイトの企画・作成を手掛ける江口さんは「自分にも妻と息子がいるので、家族のためにつくっているようなもの。これを作ったことで、妻が僕を見直してくれたのは大きな変化でした(笑)。今後は警察や松戸市の関係

メンバーは、都内のIT会社等に勤務するプログラマーやシステムエンジニアが中心。代表の吉田さんは、働きながら活動を行うことについて、

課、小学校、市民団体等との連携を深め、サイトの利便性をより一層向上させていきたい」と話しました。

日常の中でできる「防犯」対策

防犯講座の後半では、子どもが自分で自分の身を守るための護身術を載せたWEBサイトの紹介や、親の声かけの方法(単に「気をつけて」と言うのではなく、何に気をつけるかを具体的に言う、など)も紹介され、家庭や個人で防犯力を高める工夫も紹介されました。講座を主催したNPO法人MamaCan代表の山田さんは、「母として、日常生活の中で防犯に対して取り組めることが何かしらあるのではないかと。それを模索する意味もあり今回の講座を開きました」と話します。



参加者からは「子どもに自分の身を守る手段を伝え、私自身は自分が自由になる日中の時間を使って、地域の防犯に役立つ活動をしていきたい」「私もパトランに参加したい」「家庭教育学級で、子どもの防犯に役立つプログラムをしたい」など、「防犯」に対して自分ができることを模索する意見がたくさん出ていました。

働き盛りの世代や子育て真っ只中の親でも、自分の生活リズムに合わせて無理なく地域の防犯対策に取り組むことができる。このような気づきが、今回の講座の参加者だけでなく、より多くの人に生まれることで、地域の防犯力は少しずつ高まっていくのかもしれない。

「パトラン松戸」、「Code for Matsudo」、「MamaCan」に共通するのは、「やらなきゃ!」という義務感で活動しているのではなく「楽しい!」という気持ちで主体的な活動を展開していること。まちに暮らす1人1人がそのような気持ちで、地域の防犯のために何ができるかを意識することで、「安心して暮らせる地域」が育まれていくのではないのでしょうか。



③ 2016年7月設立。コードで地域課題を解決することを目指して活動。
 2009年にCode for Americaが誕生した流れを受けて、2013年一般社団法人Code for Japanが設立され、全国各地にローカルネットワークが広がっている。
 「コード」とは、プログラムを書くことだけではなく、オープンなデータを作る・活用する、ソフトウェアを使うこと。地域課題を浮き彫りにする・解決する、など様々な取り組みを、地域・自治体と一体となり取り組んでいる。
 Code for Matsudoではこれまで、常盤平さくらまつりのWEBサイト作成に協力これを基に「おまつりWEBサイト作成ツールキット」を開発。今年の松戸市花火大会特設サイトは、このキットを元に作成している。
 7月22日には「子ども向けプログラミング教育準備会」を開催。

詳しくはホームページをご覧ください。電話・メールでお問合せください。
すべて、会場はまつど市民活動サポートセンター、参加費は無料です。

● **NPO・市民活動よろず相談室**

市民活動に関する専門的なテーマのセミナーをサロン形式でお届けします。広報宣伝力 UP・市民活動トークライブ・市民活動パソコンスキル UP・やる気のアがるチームづくり・法人運営ノウハウ、5つのシリーズを用意しています。

広報宣伝力 UP シリーズ

「センス不要！素敵なチラシの作り方」

日時／平成 29 年 9 月 23 日（祝・土） 14 時～ 16 時

講師／佐藤大輔さん（グラフィックデザインオフィス） 定員／ 15 人（先着順）

やる気のアがるチームづくりシリーズ

「会議を楽しくする、ワークショップの基本を学ぶ」

日時／平成 29 年 9 月 28 日（木） 18 時～ 20 時

講師／阿部剛（まつど市民活動サポートセンター センター長） 定員／ 15 人（先着順）

● **市民活動助成制度事業募集**

市民活動助成制度は、新たな市民活動を立ち上げるため、または、既存の活動をさらに発展させるために事業に必要な資金を助成・支援する制度です。

受付期間／平成 29 年 8 月 1 日（火） から平成 29 年 9 月 29 日（金） まで

対象事業／平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日までに実施する事業

助成金額／スタート助成…10 万円、ステップアップ助成 30 万円

問い合わせ／松戸市役所 市民自治課 協働推進班（市役所本館 3 階） TEL 047-366-7062

市民活動助成制度や助成金に関心のある方はこちらがおススメ！

● **市民活動助成制度サポート講座**

(1) 団体事例から学ぶ！助成金の基礎知識 & 活用のコツ (2) 共感を呼ぶプレゼンのコツ

日時／ (1) 平成 29 年 9 月 3 日（日曜） (2) 平成 29 年 9 月 24 日（日曜） 各 13 時 30 分～ 16 時 30 分

内容／ (1) 助成金の基礎知識（助成金の社会的意義や活用方法、応募のコツ）を学びます。

また、実際に助成金を活用して活動を広げている団体の事例を学び、自分の活動にどのように活かすか考えます。

(2) 伝えたい・伝えるべき情報の整理をし、助成金プレゼンのコツを学んで体験します。

講師／阿部剛（当センター長） 定員／先着 30 名

● **まちづくりキーパーソン養成講座 2017**

「2017 年度受講生プレゼンテーション & 松戸のキーパーソン交流会」

日時／平成 29 年 9 月 17 日（日） 14:30～ 16:30 講師／阿部剛（当センター長） 定員／ 30 名

● **サポセン新規届出団体を紹介します！**（2017 年 4 月～届出順・敬称略）

まつど一時保育ネットワーク／フォト倶楽部さくら会／松戸調停協会／パトラン松戸／おむつなし育児 pipi 倶楽部／松戸駅のバリアフリー化をみんなで考える会／下矢切栄町子ども会育成会／なないろアート倶楽部／土曜会・松戸市精神障害者家族会／Morey／NPO 法人 葡萄の家／イクリスいちかわ／松戸ふれあい太極拳教室／サロント・ヘン／こころの相談室（NPO 法人千葉県東葛地区・生と死を考える会ワークグループ）／編み物会／ままたらす／生活協同組合コープみらい 千葉エリア 6 区ブロック委員会／ベビーマッサージ・ベビースキンケア教室 めくもり／ワークショップ えみ／UC Matsudo／一時保育らくがき倶楽部／矢切健康づくりグループ／東葛地域医療的ケア連絡協議会／朗読と文学の会／子育てサークル ぴよっこくらぶ／常盤平 7 丁目町会／紫陽花 森のサロン

初回講演会

「豊島子ども WAKUWAKU ネットワークから学ぶ行政との連携」

講師：栗林知絵子さん（NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長）

5月13日（土）に豊島区で子ども食堂や無料の学習支援に取り組んでいる栗林さんをゲストにお呼びしました。栗林さんは2004年から地域のプレーパーク運営に関わりはじめ、その活動の途中で「子どもの貧困」の現実直面したことから今の活動につながっています。ここでは少しだけ講演の内容をご紹介します。



●栗林さんの地域での活動のはじまり

「初めは少ない予算の中でプレーパークがスタートし、模索しながら地域の子どもたちに関わるようになりました。」途中で活動場所が無くなりかけるなど危機はあったようですが、それまでの実績と成果を認めてもらい、何とか続けることができたとのこと。そんな時、プレーパークで出会った中学3年生の男の子。彼が何気ない会話の中で「俺、高校行けないや。」と言った一言から、彼が経済的に厳しい環境にあること、塾にも行っていないため勉強について相談できる人がいないことが分かったそうです。「彼一人のために自宅で勉強会が始まり、毎日お金の心配をしながら生活していること、母子家庭のことをからかわれて不登校になったことなど、それまで考えもしなかった子どもたちの状況が見えてきました。」と振り返りながら話されました。

●なかなか理解されなかった「子どもの貧困」

たまたま出会った男の子から始まり、無料の学習支援や日常の居場所を作る子ども食堂など活動を広げていった栗林さんですが、当初周りの大人たちからは「まずは自助が大切だ！その後の共助だろ？」とか「あんな親じゃしょうがないよ、そんなことに関わっても仕方ない。」といった声をかけられたそうです。そこで栗林さんは出会った子どもたちの貧困の現実について、あえて多くのメディアに伝えていきました。子供の貧困については、家庭内のことを誰かに相談したりすることが「恥ずかしい」という文化や雰囲気があることで見えづらくなってしまいう傾向がありますが、2010年あたりから国の調査

などでも相対的貧困が広がっていることが明らかになってきました。

栗林さんの周りでも、少しずつ理解してくれる地域の仲間が増えていったそうです。

●活動を地域で広げるための

「ネットワーク」づくり

現在はプレーパーク（難しい環境にある子どもたちとの出会い）、無料の学習支援（勉強がやりたくても出来ない子どもとの出会い）、子ども食堂（生活に余裕がない子どもたちの環境を知る）の3つを柱に活動していますが、多くのボランティアの人たちの力と支援者によって支えられているそうです。また自分たちで出来ることには限界があるため、「子どもたちのために何かしたい！」という団体・企業・大学・行政をわけ隔てなく受け入れ、連携できる道を模索しているとのこと。特に学習支援と子ども食堂のネットワークの事務局を行政に委ねることで、戦略的に多様な人を巻き込んでいます。栗林さんは「基本的には自分たちが勝手にやっていることが大切、何かに依存するのではないからこそ、ゆるやかにネットワークが出来る」と語ります。

●地域の課題を根っこから解決するための戦略

「子どもの貧困を地域で解決するためには、企業も行政もやり方の違いはあっても目指していることは“子どものため”という視点では同じ」「子どもたちに対しては“みんな違ってみんないい”と言っているのに、大人が相手だとマイナスなことばかり言う大人が多い」という言葉に参加者した皆さんは大きくうなずいていました。

本当に地域の課題を解決していくためには広い視点を持って、ささいな違いは受け止め合って協働していくことが大切だと教えてくれました。

今回は行政との連携ということがテーマでしたが、その枠を超えてどうやって仲間を増やし、地域の課題に取り組むのか熱い想いと長期的な戦略を組み合わせる話す栗林さんに参加者は大きく心を動かされたようです。





初回オープン講座

「誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり」

講師：池谷啓介さん（NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝 事務局長）

● 始まりました！
まちづくりキーパーソン養成講座

今年で3期目となる「まちづくりキーパーソン養成講座」。受講生のほとんどは「何かやってみたい。でも、どうしたらよいかわからない」というところからのスタートですが、講座が終了する頃には、例年多くの受講生がそれぞれの地域で活動を始めたり、参加者同士で意気投合し新たなグループを立ち上げたり……と様々な活躍をしています。

今年5月28日（日）に初回オープン講座を開催し、ゲストには大阪で若い頃からまちづくりに取り組んできた池谷さんに来ていただきました。



● ここがすごい・・・北芝での実践

大阪府箕面市の「北芝地区」と呼ばれる地域は、いわゆる被差別部落として長年、部落解放運動が盛んにおこなわれていました。阪神淡路大震災等を契機に、より広い意味でのまちづくり運動へと移行し、配食サービスや生きがい福祉就労等の様々な事業が生まれました。こうした事業を担う団体や個人を支援する組織として2001年に誕生したのが、「NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝」です。

事業内容は多岐にわたるのですが、例えば地域の遊休地を使って住民参加型でつくった広場「芝楽広場」^{しばらく}では、住民自身が主体となって、お惣菜やパンを中心としたデリやコミュニティカフェ、日中は子どもたちの居場所・夜は大人のためのバーになる駄菓子屋、庭先を活用したアート活動が展開されています。これらは基本的に「こんなことをやってみたい！」という想いを持った住民を、暮らしづくりネットワーク北芝が後押しすることで実現したものです。

その他、様々な社会的困難を抱えた若者の自立支援や居場所づくり、放課後等デイサービスの運営、子どものための地域通貨『まーぶ』（“学ぶ”と“遊ぶ”を掛けたことば）の発行も手掛けています。『まーぶ』は、子ども

たちが地域のお手伝いや人のためになる作業をするとももらえるもので、なんと地域で提携するコンビニや、近隣大型ショッピングセンター内店舗でも利用できるそうです。

現在はNPO 法人だけでなく、事業内容に応じて合同会社、株式会社、任意団体を使い分けて相互に連携しながら、地域全体を運営するコミュニティビジネス（※詳しくはP.7のコラムを参照）の視点で、活動を展開されています。



● 参加者からの声

池谷さんの話を受けて、参加者からは多数の驚きの声、そして質問が出されました。最初はたった3人から始めた活動だということに、どのように賛同者を集めていったのか。『まーぶ』が利用できる提携先として企業とどのように交渉したのか。もうやめようと思ったことはないのか……。

本紙面上ではそのすべての回答について掲載することができませんが、ここまで多面的な事業が広まっていったポイントは、誰かが「こんなものがあつたらいいなあ」とつぶやいたもの（＝ニーズ）を逃さず事業化していったということ。暮らしづくりネットワーク北芝ではこれを「つぶやきひろい」と呼び、設立当初から大事にしてきたそうです。

講座終了後には、懇親会も開催しました。会場は松戸駅から徒歩15分の、古民家を活用したレンタルスペース「co-no-mi」。

池谷さんとじっくりお話をすることを通して、今後の活動のヒントが得られた参加者も多かったようです。



<参考>NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝
ホームページ：http://www.kitashiba.org/

誰もが集える地域の居場所、日常のちょっとしたお困りごとを手助けする生活支援——そんな活動に必要なのは第一に皆さんの思い！ですが、もう一つ無視できないものが……そう、「お金」の問題！ いやー、あまり考えたくないですが、どうしてもつきまといますよね。想いはあるのにお金がなくて動けない、活動は続けたいけれどそろそろ持ち出しでは辛くなってきた……こんなモトカシイ気持ちを抱えている方も多いのではないのでしょうか。

そんな時、「コミュニティビジネス」の視点を取り入れてみてはいかがでしょう。コミュニティビジネス（ないしはソーシャルビジネス、社会的企業）とは、「市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業」の総称です。本誌特集記事でご紹介したNPO法人地域づくりネットワーク北芝も、コミュニティビジネスとして地域の課題を解決する様々な事業を展開しながら雇用も生みだしているとのことでした。

こう書くと難しそうですが、皆さんの日常生活を振り返ってみてください。お店で何か、必要なもの・気に入ったものを手に入れるには、その対価としてお金を支払うはず。コミュニティビジネスも原理は同じ。誰かにとって必要なものを提供して、その対価をいただくということです。ただし、その対価の形はお金の場合もあれば、「お礼に、自分にできることで手伝うよ！」と直接的な労力としてお返しがある場合もあります。自分自身はそのサービスを必要としないが、事業の必要性に共感するので寄付という形で支援する、という人が出てくる場合もあります（図1）。

（図1）コミュニティビジネスの多様な収入構造



＜参照：NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター HP＞

活動内容によっては十分な収益を上げにくいもありますが、そこは工夫のしどころ。例えばコミュニティカフェの運営で、誰でも気軽に来てもらえるようにと飲食の



価格は抑えるとしても、店内の空いているスペースを活用して「ボックスショップ」を設置して運営し、その収益を運営の足しにする、なんて戦略もあります。

いずれにしろ、「何かをやりたい人」と「それを必要としている人」（もしくは、それを応援したい人）との関係性づくりをいかにうまくやるか、がポイントです。

申し遅れましたが、私はこの4月からサポセンのコーディネーターとして働かせていただいている今井と申します。都内でコミュニティビジネス支援の組織で働きつつ、今年からサポセンにも週2日程度で働くことになりました。本記事に関心を持たれた方は、ぜひ、ご相談にいらしてくださいね。

【勝手にピックアップ！コミュニティビジネス事例】

私が最近見聞きする事例からいくつかピックアップして概要だけを紹介！ポイントは、どの事例も、その事業を通じて困っている誰かの助けになっていること、そして関わる担い手自身も元気になっていること、です。「ピン！」と来た方はぜひご相談を！

- 子どもからお年寄りまで多世代で触れ合える場を！
地域の「たまり場」運営事業
- 子どものお迎えに間に合わない時には
ご近所で支えあう！地域助け合い事業
- 定年後シニアがスキルを活かして
日常のお困りごとを解決！生活支援事業
- 空き家・空き店舗、もったいない！
建物リノベーション・イベントスペース運営事業
- とっても素敵で買いたくなる！
障がい者によるオリジナル商品の開発・販路拡大事業
- 近場にお店がなくて困っている買い物弱者を救え！
移動販売車事業
- 地方に人を呼び込もう！地域の観光資源を生かした
グリーン・ツーリズム事業

◆子ども会に新しいアイデアを取り入れたい!

ある晴れた日曜の午後、情報コーナーのチラシを眺めている親子がいました。中学生の男の子の方はLet's体験!!の申し込みに来たようですが、どうやら相談したいことがお母さんにもあるようです。

お母さん：こんにちは。息子のボランティア体験の申し込みに付き添いで来たんですが…実は相談したいことがあって。新松戸で子ども会の役員を新しく引き受けたんですが、小六の娘に「今までと同じだとつまらない」と言われてしまったんです。役員さんたちとも話したんですけど、これだ!というものが決まらなくて…。

コーディネーター(以下 Co)：なるほど、そうだったんですね。情報コーナーにも色々なイベントのチラシがあるので、参考になるとは思いますが…息子さんの申し込みが終わるまで、せっかくですし少しお話をきかせていただけますか？

お母さん：そうします。この施設のことは知っていたんですが、「市民活動サポートセンター」って名前だったので、内輪のサークルに近い私たちでも利用していいのかな?と二の足を踏んでいたんです。NPOじゃないと使えないのかと思っていたので、そう言ってもらえるとほっとしますね。

Co：子ども会のイベント利用もありますし、町会の方も印刷室を度々されてますよ。ふらっと訪れたママさんたちが交流サロンで手芸をして帰ったりもしてますし、ぜひお友達との打ち合わせにも使ってみてくださいね。



☆このコーナーは、皆さんにサポートセンターのことや市民活動のことをもっと知ってもらうために、これまでに寄せられたご質問や実際の出来事などをもとに、仮想のストーリーに仕立てた「Q&A風」のコーナーです。

お母さん：ありがとうございます。で、活動についてなんですが…秋に行うイベントについて今は悩んでいます。最近流行りのクラフト系とかやりたいんですけど、スキルを持っている人がいなくて。

Co：なるほど…であれば、せっかくサポセンまで足を伸ばしていただきましたし、そういう活動をしているサークルに話を聞いてみてはどうですか? 丁度今、隣の部屋で活動している人がいるんです。…佐藤さん、ちょっといいですか？

佐藤：あらあら、私? どうかしました?

Co：実はこのお母さん、秋にクラフト系のイベントを子ども会で行いたいそうなんです。せっかくだから佐藤さんの活動を見学していったらどうかなーと思っているんですが。

佐藤：ああ、そういうことね! ちょうどいい感じに盛り上がっているから、見においでよ! ほらほら、一緒に行きましょう!

お母さん：いい、いいんですか? お邪魔じゃなければぜひ! ご相談に乗っていただきありがとうございます。自分たち以外で相談できる人がいるのって良いですね。佐藤さんに良い刺激を受けてきたいと思います。

Co：それはよかったです。ぜひ、その後の話も聞かせてくださいね。他の団体さんとコラボで何か企画したくなったらサポセンの「まちづくりコラボサロン支援企画」としてお手伝いもできますから、ぜひお声掛け下さい。

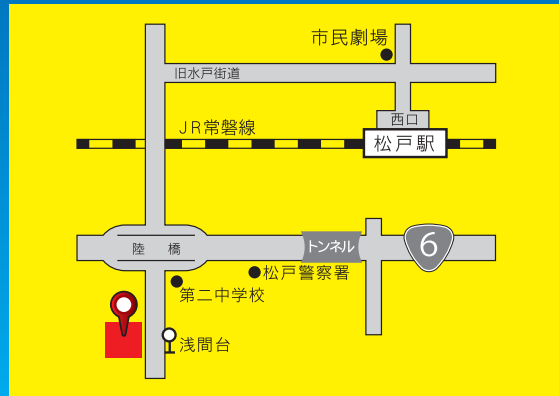
まつど市民活動サポートセンター

サポセンニュースレター第9号



発行日：2017年8月31日(※年4回発行)
発行元：まつど市民活動サポートセンター
(指定管理者 まつど NPO 協議会)

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1 (総合福祉会館内)
TEL：047-365-5522 FAX：047-365-5636



E-mail : hai_saposen@matsudo-sc.com
URL : http://www.matsudo-sc.com/
facebook : https://www.facebook.com/matsudo.sc

◇開館時間
月曜～土曜：9:00～21:00、日曜：9:00～17:00
◇休館日：第1・第3水曜、年末年始(12/29～1/3)

■「ぽっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します!

ニュースレター「ぽっく」を、お店や施設に配架していただけませんか? ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。広告掲載も募集中です。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問い合わせください。

編集後記



知る人ぞ知る、隠れた名著がサポセンにあります。それは、市民活動助成事業として「数値調理会」さん(主に男性の料理初心者のためのレシピ研究団体)が発行した「自炊者の常用レシピー母の味」です。クックパッドやおしゃれなカフェレシピにはない味わい深さ。読み応えのあるレシピ集です。人生経験豊富な方々の深い言葉に、読後、感動すら覚えました。無料配布中ですので、ぜひご一読を。[き]